

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要
授業日時・学年・教科・単元名等 授業日時：平成24年12月4日 学年：3年1組 教科：社会科 単元名：国家と国際社会～北方領土問題について考える～ ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 事前
単元・題材の目標 大単元：国家と国際社会 小単元：北方領土問題について考える 「国家と国際社会」について考える前段として、国境問題を取り上げた。 現在、尖閣問題、竹島問題などが喫緊の課題としてあるが、教科書では以前から「北方領土問題」が取り上げられている。そこで、「ビザなし交流」で択捉島に行った際の写真を活用して、本問題を生徒に考えさせることとした。 目標：北方領土問題の本質を知り、今後どのように解決に向けて取り組めばいいかを考えさせる。
単元全体の流れ （一斉学習）地図で北方領土周辺の国境線を見て、どこかおかしいことに気付く（2種類の国境線が存在することに疑問を持つ）。→なぜそうなっているのかを考える。→択捉島の写真を見る。→なぜこのような事態が起こったのかについて考える。→歴史的な経緯を復習する（歴史的分野で学習済み）。→今後、この問題を解決するためにどうすべきかを考え、2種類の意見に分かれたときはディベート形式の学習をも想定する。
本時の中心となる授業形態 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習
本時の目標（評価の観点） ○北方領土問題について正しい認識を持つことができる。 ○北方領土問題を解決していかなければならないという気持ちを持ち、どのような方法がいいかを、自分なりに考えることができる。
情報通信技術の活用
活用した場面 <input type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用した者 <input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 生徒
活用する目的 <input type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用したコンテンツ IWB

活用した機器		
<input checked="" type="checkbox"/> IWB	<input type="checkbox"/> タブレットPC	<input type="checkbox"/> 実物投影機
<input type="checkbox"/> その他 ()		

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
<p>IWB上の帝国書院版の地図（デジタル教科書活用。北方領土周辺・樺太も含む。）を見て、おかしいところがあることを見つける。</p> <p>「なぜ、2つの国境線が引かれているのか？」について考える。</p> <p>ロシア（当時のソ連）との間に「北方領土問題」という国境問題があることを知る。</p> <p>IWB上で択捉島の人や風景の写真を見て、実質ロシア人が住んでいることを知る。</p> <p>なぜこういうことが起きたのか、江戸時代末期のからサンフランシスコ平和条約締結までの歴史的経緯について知る。</p> <p>この問題を解決するために、どんな方法が考えられるか、自分の意見を持つ。</p> <p>[時間と意見の出方により] ディベート的な形式を取り、意見を戦わせる。</p>	<p>IWB上で注目できるような地図に手を入れる（2種類の国境線に注目させる）。</p> <p>日本人の墓など日本人がかつて住んでいた形跡を残す写真を提示する。</p> <p>（歴史的分野の復習） ただ、アイヌ人が原住民として居住していたことを忘れずに付け加える。</p> <p>（予想） ①ロシアから奪う ②ロシアに売る。 ③共同で住む。など 明らかに二分されるようで、かつ時間的に余裕があればディベートを行う。（結果的にその時間は取れず、③の意見が多かったので、「それがこのクラスの意見ですね」ということで授業を終えた。）</p>	IWB

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった 数名が一緒に学び合う場面があった
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった 数名が話し合う場面があった
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった

- 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
- ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

ただ単に地図帳を見ているだけでは認識しにくい点を、IWB活用により生徒の注意を喚起することができた。

(2) 活用により期待される効果

生徒がより深く、より真剣に考えるきっかけとすることができた。また、歴史的な経緯を説明する部分においても、時系列に領土図を提示することで、わかりやすかったと考える。また、択捉島の写真も全員が見ることで、多くの意見が発表された。

3. 実践上の課題

本時においてはPCを活用できないかと考えたが、それでは学びの質が保たれないのではない恐れがあり、IWBのみの活用とした。結果的にはそれでよかったと考える。

また、この授業については、地図のデジタル教科書があったからできたと思う。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。